

これまでの介護予防ケアマネジメント検討ワーキングの主なご意見

第 1 回：平成 27 年 6 月 29 日(月)

ケアマネジメント全体について

- どの対象者に、あんしんすこやかセンターがケアマネジメントするか、関与の仕方・度合いなどの検討が必要。
- 国が考えている先に立ちたい。自立的な方、自身で考えられる方はたくさんいる。せめてその方にできそうなものを考えたい。
- 支援者の視点ではなく、本人の視点に立って考えていかないと自立支援ではなくなる。

アセスメントについて

- 現在のアセスメントシートは、現状を知るための項目としては網羅されているが、原因が探れる項目についても盛り込めたら良い。
- アセスメントの内容を、専門職だけでなく、本人、関わる人が見て分かる内容にすることが理想的。チェック項目によっては、ここにチェックが入ると危険と一目でわかると、新人でもわかりやすい。
- アセスメントシートは経時的に見ることができるとより活用できる。本人と共有するのであれば、「目標はこれだったけれど、ここが達成できていない」というのもシートを使用しながらできる。
- 興味関心シートは活動参加に結び付けるときの目標を探るために活用し、介護予防の自立支援のケアマネジメントの目標に活かせるものにならないか。できなくなったこと、諦めていることがあればまたそれができるようになるかもしれませんよと働きかけることが重要。
- ポイントと濃淡が分かる工夫が必要。

ケアプランについて

- 今の高齢者像と今後 10 年後の高齢者像をイメージして、その像に見合った、10 年、20 年、30 年を見越して使用できるものを考えていきたい。
- 本人のサポートに回るスタンスで、ご本人が要介護になったときにも、持っている情報を担当ケアマネジャーに引き継げるようなものにする。

第 2 回：平成 27 年 7 月 31 日(金)

ケアプランについて

- 簡略化は必要。
- 市町村判断でケアプラン様式のアレンジが可能であれば、自分のプランとして捉えてもらえる様式を作成したい。
- 本人が書きたくなるプランになるよう、各項目をわかりやすい表現に変更してはどうか。

これからの高齢者像について

- 今後高齢者となったときに、利用したいと思えるサービスがあるか。やりたいことができれば、それが活力になる。
- 他人に世話をされたくないなので、介護予防に取り組みたいと思う。
- 今の状態を自分で受け止め、これで良いと満足できるようにしていきたい。自分の人生は自分で決め、いきいきとした生活を送りたい。自分で選択をするためには地域資源の充実が必要。自分が落ち着いて生活を送ることができる場所も大切。本人が介護予防をしたいと思え、誰でも参加できるものがあっても良いと思う。
- 仕事、役割をもって活動していきたい。自分がこうありたいというところを目指すことが 1 つの幸福。
- 60 代後半では、つながりがあり、現役で役割を持ち続けることができる人が多い。